

スペシャルオリンピックスは、知的発達障害のある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織です。SOでは、これらのスポーツ活動に参加する知的発達障害のある人たちをアスリートと呼び、多くのボランティアやアスリートのファミリーと一緒に活動を支えています。ここ富山でもSOが活動しています。現在約130名のアスリート会員が8つの競技種目に取り組んでいます。



2009年第1回スペシャルオリンピックス日本、東海・北信越ブロックフロアホッケー競技会の表彰式を終えて

今季のエッセイ

SON・富山の一員を目指して

昨年末、吉田事務局長より「SOを手伝ってくれないか」とお電話をいただきました。正直、すぐには「ハイ」と答えることができませんでした。「自分が何をお手伝いできるだろうか?」と考えたとき、答えが出なかったからです。

吉田さん、清水さんとは、以前に「ハートフル美術展」という障害者の方々から作品を預かる形の展示会を年に1回、開催していたときからの付き合いです。この美術展の目的は、「ハートフル美術展を開催することにより、アーティストの育成及び自立のための一歩となることを目指す」でした。この美術展も年々スケールアップしていき、展示会場である県民会館のホールがいっぱいになるまでに成長しました。しかし、スケールが大きくなればなるほど、問題も発生してきます。それは運営力と資金の不足です。当時、吉田さ

副会長 山本 肇

んや清水さんといろいろな所へ、設営の協力や、資金援助のお願いに行ったことを思い出します。

SON・富山の素晴らしいところは、ボランティア、そしてファミリーの方々率が率先して活動されているところだと思います。共に努力して、共に喜びを分かち合い、共に涙する。先日の世界大会の祝勝会で皆さんが涙する姿を見て、そう思いました。入ったばかりの私は、その感動についていけなくて寂しい思いもしましたが、同時に、なんて素敵な集団なんだろうと感じました。

ここまで土台のしっかりとした会になるまでには、吉田さんはじめ、たくさんの方々の努力があったからこそだと思います。私も少しでも早くSON・富山の一員になれるよう頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいいたします。

フロアホッケー特集

2009年冬季プログラム フロアホッケー競技会

2009年4月5日(日)、高岡市にある富山県まなび交流館で、アスリート27人、ボランティア16人、ファミリー40人以上が集い、開催されました。

アスリートとパートナーを白組と青組に分けての試合です。アスリートは、緊張して開始のホイッスルを待ちます。年長のアスリートは、迫力がありました。年少のアスリートは、やっぱり可愛いかな? でも、真剣です! シュートもかなり決まっています。

白熱したプレーが続き、得点のたびにアスリートはベンチに近づいてハイタッチ。ベンチも観客も大歓声。



とにかく接戦でした。「一進一退」とはまさに今回のプレーのこと。結果は15対16。

もちろん、真剣にプレーしたアスリートはすばらしかったのですが、日頃からアスリートを注意深く観察して指導してきたコーチ陣もすばらしい!



東海・北信越ブロック フロアホッケー競技会

2009年4月25日(土)26日(日)、長野市にある真島総合スポーツアリーナ、通称「ホワイトリング」で、2009年第1回S0日本、東海・北信越ブロックフロアホッケー競技会が開催され、SON・富山のフロアホッケーチーム「ブルーサンダース」は、全力を出して健闘してきました。

遠征した12人のアスリートと7人のコーチ・スタッフ、そしてサポーターは、それぞれ大きな大きな感動を胸に帰ることができました。あの2日間、思い出のホワイトリングにはS0の素晴らしさとフロアホッケーの素晴らしさが凝縮されていました。

アスリートやコーチは、最初は少し緊張気味かなとも思いましたが、ディビジョン分けの試合をこなしていくたびに、アスリートの表情は真剣になり、サポーターたちからの声援もひときわ大きくなっていきました。



練習の成果、いや、練習以上の成果を発揮することができたアスリート。その力を導き出したコーチ。スタンドからいつも大きな声で声援を送ったサポーター。すばらしい競技会でした。



最近のイベント

2009年5月30日、県民公園太閤山ランドで、ウォークラリーで汗を流した後に恒例のバーベキューを行いました。

初めてのウォークラリー

午前10時、第一駐車場に集合です。簡単な説明の後、参加者全員で準備体操。最初のスタートポイントでハンコをもらって、アスリート20人とボランティア9人を含め総勢55人がウォークラリーに出発です。

ポイントは全部で7箇所。各ポイントには富山大学の学生ボランティアの皆さんがハンコを持って待機してくれました。やまはぎの道をゆるやかに下って、こどもみらい館に近づくと、参加者の足取りも軽くなってきました。

野外劇場 ふるさとパレス 展望塔 こどもみらい館
プール広場 ゴールのバーベキューコーナーと、約2キロを歩き切りました。



ファミリー委員会では、バーベキューの準備の間の時間に輪投げを用意してくれて、アスリートたちも楽しく食事時間になるのを待っていました。



恒例のバーベキュー

軽く乾杯の後、みんな、思い思いに焼いて食べています。食事が終わったら、ボランティアがいろいろなゲームをしてくれました。「猛獣狩り」、「インパルス」、「人間知恵の輪」といったゲームで盛り上がりました。

終わりの頃、あいにく雨が降ってきました。準備やゲームで大活躍だったボランティアの皆さんに対して、中山アスリート副委員長からのお礼の言葉で締めくくりました。みなさん、お疲れさまでした。



ナイターのサッカー、始めます

2009年夏季から、サッカープログラムをお世話することになった松岡です。最初、私はSON・石川でスノーボードのコーチとして携わっていました。富山では、2006年、陸上競技会の頃から関わり始め、2007年にはボランティア委員長としてバーベキューもお手伝いしました。サッカー経験では、日本サッカー協会C級審判員資格を持っています。今期のサッカーは、富山では初のナイトトレーニングになります。

初回のトレーニングは、5月28日、大島中央公園コミュニティ広場に12人のアスリート&パートナー、めっちゃノリのいいファミリー多数、加えて私を含むイケメン？コーチ3人でスタートしました。練習の前、名札の代わりに白いガムテープにマジックで名前を書いて持って行ったのですが、マネージ

サッカープログラムヘッドコーチ 松岡 英治

ャーがチェック柄の手製ゼッケンを作ってきてくれて、もう感激。アスリート、パートナー、ファミリーはみんな、明るく笑顔で盛り上がりました。参加したファミリーは、筋肉痛が出て大変だったのではないかと心配しています。S0に初参加の川原コーチも、膝がガクガクでした。SON・石川のアルペンスキーの金子コーチも、私も、徐々にアスリートと無邪気に触れ合い、心から楽しむことができました。そして、元気一杯のファミリーにも助けられました。「やっぱりS0はいいなー」。さあ、これからもサッカープログラムを盛り上げていきましょう。



S0で育った、娘の自立心

「お母さん、早く行くよ」。フロアホッケーのプログラムに参加する日の朝、まだ7時前というのに娘の真菜は準備万端で、今か今かと待っています。プログラムが楽しみで待ちどうしくてしかたがない様子。今では、練習中でも、私に用事がある一人にしているのも大丈夫。昨年秋には、バスケットで地区大会に個人スキルで出場。春には、フロアホッケーのブロック競技会にチームとして出場するまでになりました。

S0に参加したのは3年前。「イヤ、行かない」が口癖。体を動かすことは好きでしたが、初めての場所と人に慣れず、なかなか参加できませんでした。本人がじれったく感じていても、コーチやファミリーの温かい声かけと心配りで、徐々に参加できるようになりました。S0では、「ファミリーは自分の子

ファミリー 岩瀬 妙子

には関わらない」との方針だったので、私は、他のアスリートと関わりながら、次第に娘のことは気にならないようになりました。

他のファミリーが娘に声をかけてくれたり、注意を払ってくれたりして、育ててくれます。娘のことを理解してくれる人が増え、とてもうれしくて、ありがたく思っています。娘も活動に慣れ、精神的にも自立してきました。今では、仲間もたくさんできて、S0が大好きです。今後も活動に参加して、私自身もアスリートと共に成長していけたらと思います。



息子と一緒に卓球を楽しむように

富山市内が練習会場ということで、昨年度の夏季プログラムでは、卓球に参加させてもらいました。息子は卓球の経験がなく、私も小学生のときに遊んだことがある位でしたが、一緒にスポーツを楽しみながら、息子にはラリーができるようになってほしいとささやかな希望をもって参加しました。

練習会場へ出向くと50人余りの大人数で、ファミリーもよその子とペアを組んで、体操から始まる練習に参加しました。息子がコーチや他のファミリーにわがまを言っているのを横目で見ながら、担当するアスリートと汗を流しました。プログラムの回数を重ねるごとに、アスリートが少しずつ玉を返せるようになっていくのがうれしく、私自身もどんどん力が入りました。ヘッドコーチによるファミリーへの卓球レッスンに参加して、アスリートに球出しもできる迷(?)コーチとなってお手伝いをさせ

ファミリー 渡辺 康広

てもらいました。

息子もどんどん上達し、競技会の開催の頃には、サーブが打てたり、ある程度のラリーが続くようになりました。今では、休日に近所の体育館へ行って親子で卓球を楽しんでいます。皆さんに感謝感謝で、ありがとうございました。

冬季はアルペンスキーに参加しましたが、あいにくの暖冬で予定のトレーニング回数がこなせず残念でした。来年も参加して、滑れるようになることを願っています。



冬季プログラムを振り返って

フロアホッケープログラム（富山・高岡）

今年度のフロアホッケープログラムは、4月5日の競技会を最後に無事終了しました。富山・高岡両会場合わせて30人のアスリートとパートナーが参加しました。冬季競技ということで手がかじかむような寒さの日もありましたが、大きな怪我もなくアスリートはみな笑顔で元気に頑張りました。練習メニューに更に工夫を凝らしたことで、毎回少しずつですが、着

アルペンスキープログラム

今シーズンは大変な人気で、総勢45人のアスリートとパートナーに加え、ボランティアとファミリーを合わせると100人を超える一大プログラムになりました。アイダホでの冬季世界大会に出場のため、2月のトップシーズンにトレーニングを実施できず、また、積雪不足で6回しか実施できませんでした。しかし、内容は実に充実していて、アスリート全員がリフトに乗ってグレンデ上部から滑り降りることがで

実なスキルアップを遂げることができました。また8人のアスリートにSP委員長賞（皆勤賞）が渡されました。来年もフロアホッケープログラム会場で皆の笑顔に会えることを楽しみにしています！

	参加者数	SP委員長賞
アスリート	28人	8人
パートナー	2人	0人

きました。これは、大変熱心に携わってくださったコーチの方々のお陰です。来年以降も、引き続き充実したプログラムを実施できるようにがんばりたいと思います。皆様のご協力をお願いします。

	参加者数	SP委員長賞
アスリート	37人	25人
パートナー	8人	6人

歯っぴいサポート手帳



「歯医者さんに行くのを嫌がる」「歯医者さんで暴れて困った」「子どもの障害を理解してもらえず叱られた」など、歯医者さんでの困りごとや不安を抱えている人が多いと思います。また、「できれば身近な歯医者さんで受診したい」といった声もあって生まれたのが「障害児・者歯科医療提供ネットワーク」です。

富山県は昨年3月、社団法人富山県歯科医師会の協力により「障害児・者歯科医療ネットワークガイドブック」を作りました。ガイドブックには受け入れ可能な障害の種別のほか、登録歯科医院の情報が掲載されています。このネッ

トワークをより有効に活用できるよう、このサポート手帳が作られました。サポート手帳は、歯医者さんが受診者のことを理解する手助けとなり治療をしやすくするのが目的です。事前に、障害児・者一人ひとりの特性や治療時に配慮してほしいことなどを手帳に記入しておきます。歯医者さんは「サポート手帳」を開いてコピーし、それをカルテに貼り付け利用することができるので安心ですね。

サポート手帳は養護学校などで配られていますが、学齢期を過ぎたアスリート等は県庁のHPからダウンロードしてください。富山県庁のHP 組織別案内 厚生部 健康課 「歯っぴいサポート手帳」です。

お問い合わせは:076-444-3226
障害児・者歯科医療ネットワークはこちら
<http://www.tda8020.com/center/syougai/n-index.htm>

高福レストラン えいぶる

高岡市ふれあい福祉センターの中にある「高福レストラン えいぶる」では、現在2人の「えいぶるメイト」が、他のスタッフと協力しながら元気に働いています。手作りの味と栄養バランスを考えた「日替わり高福ランチ」は一番人気で、昼12時半までには完売してしまうほどです。特製のうどんだしと腰のあるさぬき麵の

組み合わせは、ご年配のお客様にも大好評で、一度食べたらずみつきになりますよ！

週末には、店内に置かれたグランドピアノを使ってのコンサートやジャズライブなどにもご利用いただいています。高岡へお越しの際にはぜひ一度お立ち寄りください。



三津島 渉(みつしま わたる)

2006 水泳～、 - ・水泳

刺し子にはまっていて、毎日作品を作り続けています。最近は縫い目が細かくなり、きれいに仕上がるようになりました。



西田優真(にしだ ゆうま)

2004 水泳～、アルペンスキーとフロアホッケー・サッカー

3歳の頃から大相撲のファンで、毎回、欠かさずテレビで観ています。3年前、魚津で大相撲が開催され、サインをもらったり一緒に写真を撮ったりで大喜びでした。しかし、大相撲は2ヶ月に一回あって2週間も続くので、その間は宿題もできず大変です。6年生の夏休みの自由研究では大相撲の研究をパソコンでまとめました。この春から中学生になったのですが、初めての中間テストの期間にまるまる相撲が重なってしまってお大変でした。将来は力士を目指したいところですが、本人は太れないのと体が硬いのであきらめました。今は、行司になりたいと言っています。



小川航(おがわ こう)

2006 年ボウリング～、フロアホッケー・サッカー



学校の授業の作業「窯業班」の時間で自由に製作させてもらった時の作品「ドラゴン」です。

上卓(かみ すぐる)

2007 年 FH～、フロアホッケー・卓球と陸上とサッカー



学校での書き初め作品です。力作～(*^_^*) “ステキな出会いがいっぱいのSO”大好き！！です。

寺畑響(てらはた ひびき)

2008 年サッカー～、フロアホッケー・水泳

NHK 教育の番組「つくってワクワク」に出てきた絵の真似をして描いたものです。車や野菜に顔を描くのが好きなのですが、どれもにっこりとした表情で、ほのぼのとさせられます(---)



宮野光正(みやの こうせい)

2007 年 AS～、卓球・水泳



左の作品はタオルハンカチの藍染。微妙な染め上がりです。(中1の作品) 右は金箔の貼り付けの小物入れ。蓋に小さなチューリップをデザインしました。(中2の作品) 今年中3の作品が楽しみです。

富山大学とSON・富山の連携

SON・富山では、2008年、富山大学人間発達科学部発達教育学科の水内豊和准教授の支援を受けて、学生ボランティアが授業の一環として活動に参画してくれて大きな成果をあげました。

水内准教授は、2008年4月から、ご自身が指導されている主体的な体験・参画型の「総合演習」という授業科目の中の一つコースとして、学生がスペシャルオリンピックスの活動に一定時間数参加することで授業履修に必要な単位を付与する取り組みをスタートされたのです。

参加した学生は口を揃えて、「この授業が障害者をよりよく知るきっかけになった。この授業を通じてSOに楽しく関わることができた」と。参加者の一人、平崎美幸さんは、「もともと障害児者の支援に興味があった。しかし、実際に関わろうとするとなかなかチャンスがなかった。トレーニングを重ねる毎にアスリートの成長を感じ取ることができて、それがとても感

動的だった。今後もボランティアとして活動に参加したいと。

SON・富山の澤田スポーツプログラム委員長は、「富山のボランティア層が厚みを増していることを実感する。若い世代の元気さやフットワークの軽さが、既存のボランティアを刺激している。アスリート自身にとっては、親世代ではない『同世代の仲間』を得た喜びに満ちている。彼ら学生たちは、今後、社会へ出て行ってから、必ずや『共生社会』の形成に大きな助けとなるはずだ。これからもこの勢いを止めることなく、さらに輪を広げていってもらうことを期待している」と。



SP委員会より

地区組織とブロック編成

2009年1月15日に秋田県に地区組織設立準備委員会ができ、とうとうSOの組織が47都道府県に揃いました。この全国の組織は6つのブロックに分かれており、富山は、静岡・愛知・岐阜・三重・長野・新潟・

スポーツプログラム副委員長 戸田 武宏

石川・福井とともに「東海・北信越ブロック」に所属しています。今年度もブロック単位で様々な活動を行っています。

3/15	上半期ブロック別SP委員長会議（東京） 各地区の事業計画を基に、研修会・競技会の開催場所、日程について調整しました。
4/25～26	フロアホッケーブロック競技会（長野） ブロック内外から8地区のアスリート・ボランティア・ファミリーが参加し、盛大に開催されました。
6/26	認定コーチ研修会（新潟） 競技会運営やディビジョニングなどについて、コーチクリニックよりもさらに詳細な内容を研修することで、コーチのスキルアップを目指します。
6/27	SP委員長研修会（新潟） 開催地で実際のプログラムなどを見学し、各地区でのスポーツプログラムの課題や成功例などについて話し合い、プログラムの質の向上を目指します。
9/13	水泳競技会（石川）
10/31～11/1	地区大会（三重）

これらは正確には「ブロック」ではなく「地区」の競技会・大会ですが、ブロック内の地区も招待され参加する予定です。それぞれの地区組織は、歴史も規

模も様々ですが、お互いに支え合いながら切磋琢磨してSOの活動を広げていこうとしています。

アスリート委員会より

昨年秋から新しいサポーターを迎え、新アスリート委員会の活動がスタートしています。まず、「アスリート委員会で何をするか」について話し合いました。東京ディズニーランドや大阪ユニバーサルジャパンへの旅行、スポーツ、キャンプ等いろいろな意見が出ていましたが、最初は、遠足を行うことに決めました。

「アスリート全員が遊んで、楽しめる場所」「全員が参加しやすいこと」を目的に、県内の6ヶ所に候補を絞り、資料を見て話し合いを進めた結果、太閤山ランドに決定しました。

3月14日には太閤山ランドへ下見に行ってきました。天気もよく、多くの来園者の中、「みんなが喜ん

でくれるには、何をすればよいか」「小さい子が逃げ出さないようにするには、どうすればよいか」などを話し合いながら見学しました。これからもサポーターの協力を得て、月に1～2回は集まって活動していきます。



事務局から

<コーチクリニックに参加しよう>

まだ日程は固まっていますが、今年は8月に、陸上・水泳・サッカーの3種目で予定されています。今回の会場は呉西方面を予定しています。ファミリーには積極的に実技も受講してトレーニングに参加しましょう。競技実技の講習のほかに、午前中にはゼネラ

ルオリエンテーション(GO)が開催されます。GOは、毎回違った角度から幅広い分野について解説されますので、特にファミリー・ボランティアは、年に一度は必ず参加してください。CCの日程は7月上旬にホームページなどでお知らせします。

<賛助金・寄付金をお寄せ下さった皆様(2009年3月21日~2009年5月31日)>

敬称略

青木 正嗣	大野 政代	北川 登貴	杉本 仁志	長久 慎吾	牧野 歌子	安吉 永興
青木 隆濟	小川 清美	北川 英一	杉森 喜三郎	長久 満	巻端 凌生	山口 修
青木 洋子	尾塩 真子	北川 文子	素谷 孝子	長久 栄子	巻端 将智	山口 恵美
油本 翔太	尾山 弘隆	下条 竜一	素谷 宏	西田 直子	巻端 克文	山崎 政行
油本 光正	尾山 正和	下条 由季子	高畑 武志	西野 昌樹	巻端 真紀	山田 静葉
油本 栄子	尾山 規子	槻 栄一	竹田 慶正	西野 彰	松田 智至	山田 孝哉
石田 健太	尾山 由里子	河内 雅人	田村 宏道	西野 淳子	三上 裕之	山本 幸子
石田 郁雄	海内 孝明	石仙 美幸	田村 進	野手 美由貴	三上 恵美子	山本 肇
石田 尚輝	海内 亜由美	古谷内 夏矢	塚本 裕香子	野手 光子	三津島 涉	山本 松昭
石田 なるみ	笠間 健士朗	古谷内 明美	塚本 勝宏	荻原 律子	三津島 淳	山本 廉
伊勢 千紘	金山 朋代	佐伯 秀彦	塚本 須麻子	早崎 安雄	三松 隆之	吉澤 恵
岩腰 一成	金山 幸代	坂田 翔太	辻 龍之介	早崎 雪子	宮崎 花恋	米 学
岩白 翔太	金山 彰	坂田 裕紀	辻 圭介	林 俊祐	宮崎 美代	米澤 麻里子
岩白 真衣	金山 美智代	佐々木啓三郎	寺島 知駿	林 純平	宮下 陸也	和田 千江
岩白 誠	金山 敦	佐々木 陽子	寺島 慶子	林 繁信	宮下 洋子	渡辺 佳世子
岩白 真美子	上 卓	佐々木 佑	寺畑 雅英	林 知佳	宮林 亮	渡辺 守人
宇於崎 俊陽	上 隆義	篠田 健弘	寺畑 由佳	福島 亘	村上 和久	渡辺 奈緒
魚津 亘紀	上 文佐乃	柴田 信作	戸田 一郎	福島 朝子	村下 昭一郎	腰田 恵子
円仏 和司	上澤 博子	末永 征士	戸田 薫	藤井 裕久	森田 とみ糸	渡辺 隆志
円仏 吉秀	神島 雅諭	末永 由美子	當波 瑛美	保科 出海	森田 英男	渡辺 康広
大坪 岳志	神島 健二	姿 駿成	當波 秋子	前田 恵佑	森永 匡俊	
大坪 恭子	神島 辰枝	杉田 幸平	鳥内 勇人	前田 友幸	森永 文夫	
大野 裕司	河本 都香	杉田 康子	鳥内 禎久	前田 万里子	森永 ゆみ江	
五本水産(株)		(株)富山ガスエンジニアサービス		(株)藤井産業		小栗小児科医院

ありがとうございました。

賛助金・寄付金振込先

スペシャルオリンピックス日本・富山

(日本は、「ニッポン」としてください。)

北陸銀行本店(店番 101)、普通口座 5207770

賛助金

<個人> 一口 3,000円

<企業・団体> 一口 10,000円

お問い合わせは、SON・富山事務局あてメールもしくはファックスをお願いします

ApeosPort-III C7600/C6500/C5500

インターネットとつながり
進化する複合機

富士ゼロックス北陸株式会社
 本社 金沢市中橋町11番18号
 TEL(076)260-0900 FAX(076)260-0901
<http://www.fujixerox.co.jp/hrx/>